

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

‘世界を驚愕させる日本製品と技術力’

— チャレンジ精神と新製品開発 —

(株)ジョンクエルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development  
‘Japan products in the world and technical capabilities’

- Spirit of challenge and a new product development -

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

**Keywords: 製品・高品質・チャレンジ精神・運動・育成**

金金字塔といわれてきました“Japan as number one”の称号も、時の流れとともに風化の一途を辿りつつあるのではないのでしょうか。我が国は、B to Cビジネスではハイブリッド自動車をはじめとして耐久消費財、D to Bビジネスでは液晶用偏光フィルム、液晶テレビ用発光ダイオードの赤色の発光体、半導体用フォトレジスト、アルミ電解コンデンサ用セパレータ、極小ボールベアリングなど、世界でもトップクラスの製品とシェアを獲得していることは周知の通りです。しかしながら、一方では品質低下が原因となるクレーム、事故などが多発していることも事実です。確かに、日本製品は諸外国から見れば、ハイグレードで満ち溢れた機能を装備していると思われているようですが、逆にオーバースペックが金額を高くしているという見方もあるようです。言い換えますと、それらが“Japan as number one”の称号を担ってきた証とも考えられますが、今になってみれば、その呪縛から逃れることができず、この結果、サムソンやLGのようなすばやく感度の高い経営判断をすることができにくいため、後手の対応になってしまっているといえるのではないのでしょうか。もう少し手厳しく述べますと、「高品質」という考え方は、もはや世界では通用しなくなったといっても過言ではないといえます。新たなビジネスチャンスを的確に捉えるためには、過去の栄光を胸に秘めつつ新たなものへ向かうチャレンジ精神(Challenge Sprit)が必要になると思われます。このチャレンジ精神が、今の日本に一番欠けているのではないのでしょうか。

最近の東南アジア、特にインドネシアの製品を見ますと、おおよそ20年前の衣類は一度洗濯したら縮んで着られない状況でしたが、今では縫製もよくかえて日本製品よりも良く、価格もかなり安く安全な製品であるといえます。ハイテクのようなものとか、耐久消費財に至ってはまだその域を超えてはおりませんが、やがては追いつかれる時が来るのかもしれませんが。インドネシア全体が勤勉な人々とは思えませんが、ほんの一部の人々の間で「品質をよくしよう」という運動が持ち上がっています。これは、数多くの日本企業が進出しているために、そのいいところを日本でいう文科省のような省が励行しているとのこと。この運動が徐々に大きくなれば、やがて我が国の近いところまで接近してくるのではないかと思います。これら一連の活動を支えるものは何かと考えますと、まさに「チャレンジ精神」に火をつけたといえるのではないのでしょうか。そして、何かから脱出しようと思ふ気持ちが、「チャレンジ精神」を育成させるのかもしれない。

こうしたことに鑑みますと、近代的なものにあふれた我が国では、「チャレンジ精神」は育成されないのでしょうか。先ほども述べましたように、「高品質」でないと世界に打って勝つことができないという暗黙のうちの決め事が、開発者自身を知らないうちに縛ってしまい、身動きできない状況に置いているのではないとも考えられます。企業経営の中で、売上の約95%は改善・改良型製品で構成されています。もう少し肩の力を抜いて周りを見渡すことができれば、自然と「チャレンジ精神」が呼び覚まされてくるのではないのでしょうか。

この JQ International Review が、愛読される方の背中をさらに押すことができれば幸いです。

---